シンポジウム 地域創生の時代へ ~足元からつくろう「やさしい社会」~

市民がつくる、「地域創生の時代」 内藤 正明

いま世界が直面している課題(持続不可能な状況)

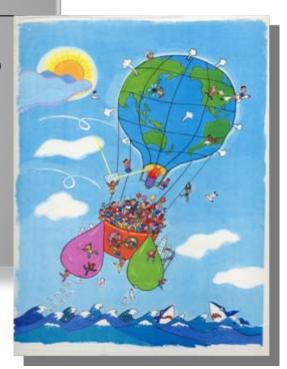
- 1)地球環境問題
- 異常気象(温暖化)
- ・生態系の崩壊(生物多様性の減少)

2) 資源枯渇

- 石油生産量の減衰
- ・水資源の枯渇

- 3)経済の危機
- グローバル経済の危機(投機マネー)
- ・ 地方経済の崩壊

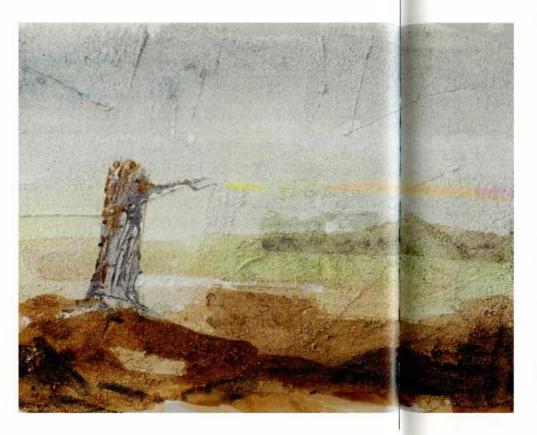
- 4) 社会の危機
- 社会経済格差の拡大
- 伝統や地域文化の衰退



絵:加藤晃

最後の木が朽ち果て、

最後の川が汚染され、 最後の魚が獲られたとき、 初めて、我々はお金を食べて 生きていけないことに気づくのです。

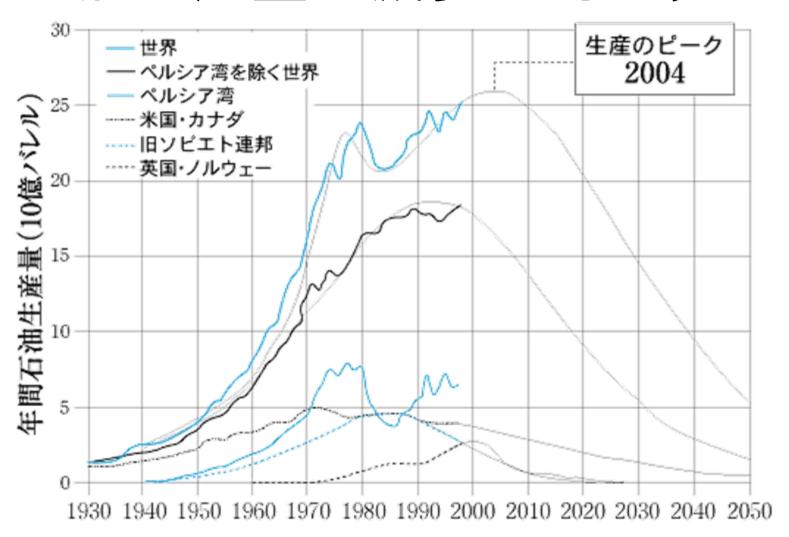


これまで見てきたように、「忍び寄る危機」は、私たち人類の命を支えている自然の恵みを大きく損ない続けています。産業革命以降、人間社会は資源の大量消費と引き換えに、物質的豊かさと利便性を享受してきました。その陰で、地球の陸地を覆っていた森林が急速に失われ、太古の生物の死骸などが地中で長い時をかけて変化してできた化石燃料は、地球温暖化をもたらしながら枯渇へと向かっています。まさに、「最後の木」が朽ち果でようとしているのです。本章では、育つより早く切り倒され、朽ち果でていく「木」の現状を詳しく見ていきます。

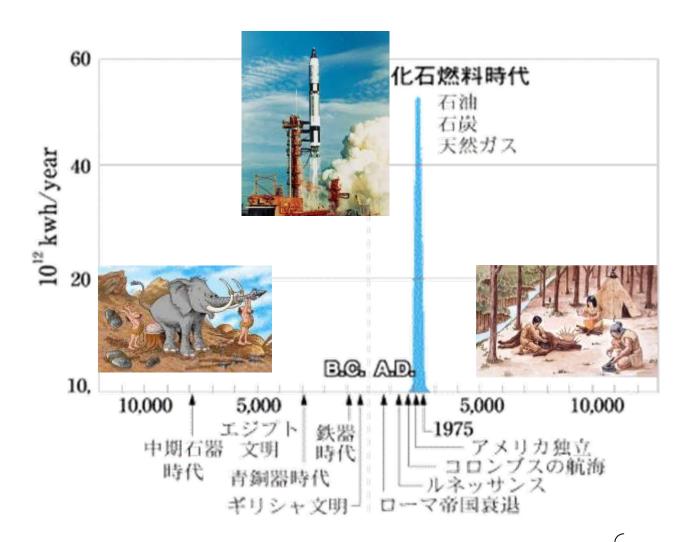
######## 37

35

石油生産量は減少に向かう!



つかの間の繁栄?



オレゴン州政府(1975)より 図提供:石井 吉徳

20XX年 *日本*

- ・コンビニは、配送用のトラックが動かず、品数が激減し、夜間は節電のため閉店。
- ・冷凍保存が必要な食料が、スーパー、コンビニから消える。
- •自動販売機が無くなる。
- 野菜などの外国産が姿を消し、国産の野菜が高値で売られるが、量が少なく、一般家庭ではほとんど買えない。
- ・肉・魚も輸送燃料不足で、ほとんど輸入が無くなる。国内肉は量が少なく、一般家庭では、ほどんど買えない。
- *米国からシーレーン確保のための巨額の軍事費を要求され、 税金の負担が増大。

A: 先端技術型社会



図:国立環境研究所

Technology Oriented Type

- 活力
- 都市型 / 個人を大事に
- 集中生産・リサイクル
- 大規模な先端技術(燃料電池車, 原子力, 核融合, 二酸化炭素隔離・・・)
- ■より便利で快適な社会を目指す

B: 自然共生型社会

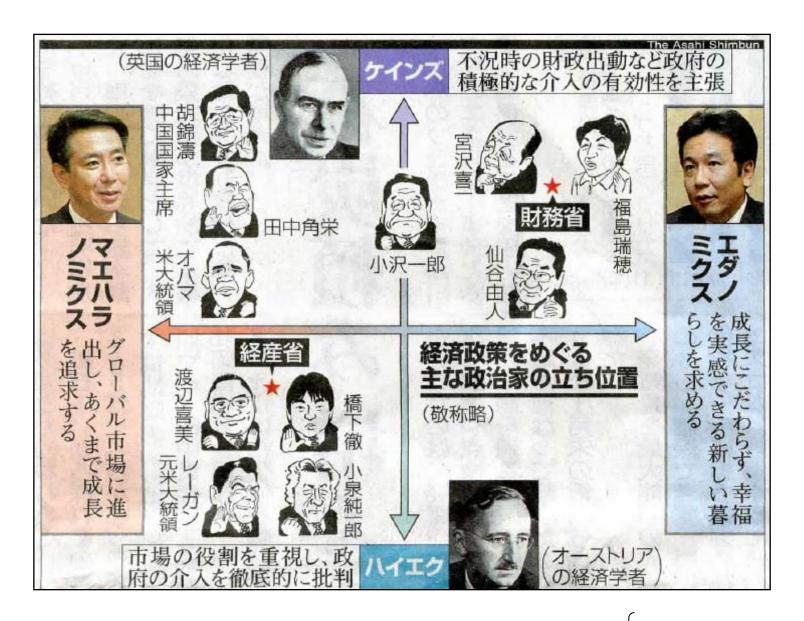


図:今川朱美

Harmony-with-Nature Type

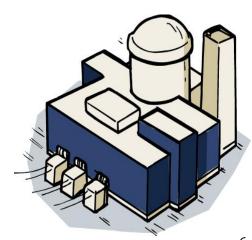
- ゆとり
- 分散・自立型 / コミュニティ重視
- 適量生産・もったいない
- 自然の生産力を高度に活かす適正技術とライフスタイル (小型風力発電, 自転車, 地産地消, 共住・・・)
- 社会・文化的価値を尊ぶ

AとB、二つの社会、どこに軸足を置くのか?



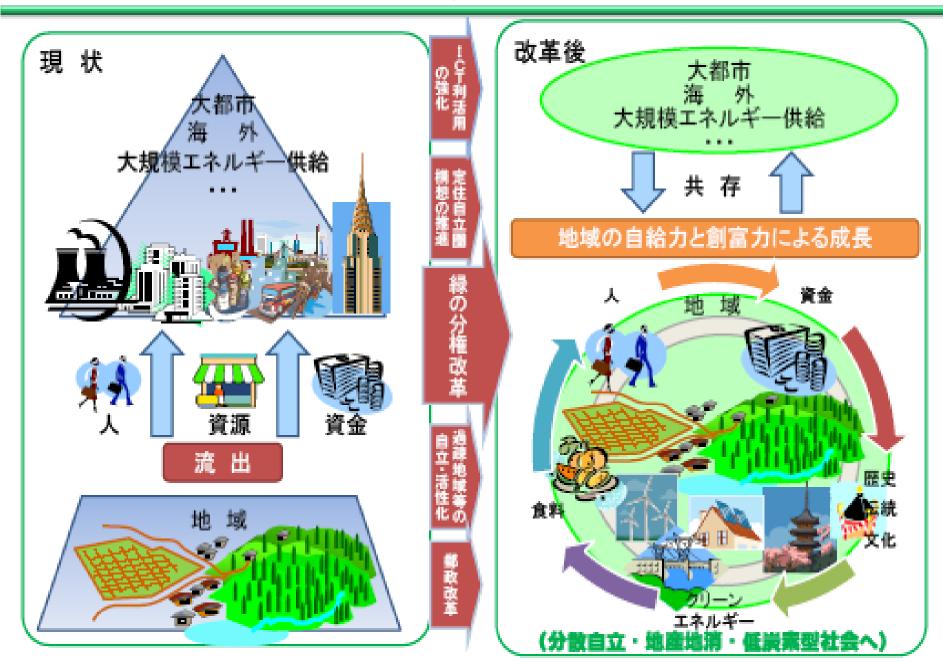
大綱に掲げられた諸対策 ~エネルギー供給部門~

- ・新エネルギーの積極導入 太陽光·熱、風力、バイオマス、 廃棄物発電
- ・燃料転換等 石炭・重油→天然ガス
- ・原子力発電の推進

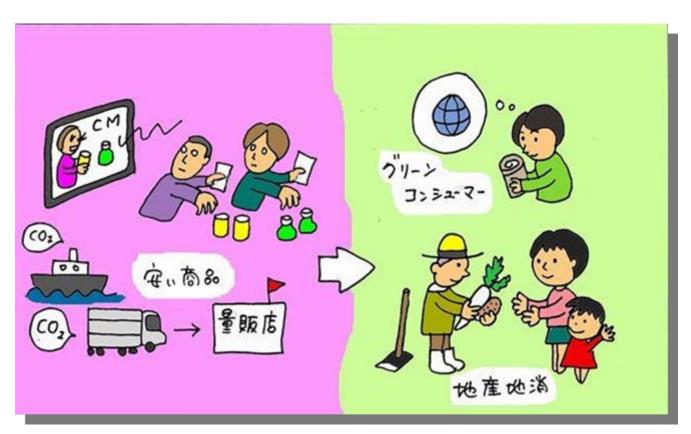




「緑の分権改革」の推進による地域の成長



地域内循環経済のすすめ・・・





NPO法人環境文明21 NPOと企業・学識者の連携による「環境文明社会」

NPOと企業・学誠有の連携による「環境又明任会のロードマップ作りより

技術と都市変革のキーワード

技術と都市	20世紀	21世紀
技 術	規格/大量生産 ・時間効率 ・枯渇資源 ・世界共通 ・工業的生産 消費社会 ・供給側主導 ・使い捨て ・物の所有消費 ー過的廃棄 ・非再生的 ・非分解的	適量/多様生産 ・資源効率 ・再生性資源 ・地域固有 ・工芸的生産 市民社会 ・利用側主導 ・高品質長寿命 ・ザービスの利用/レンタル 循環・再生 ・再生的 ・自然還元的
都市	大規模工業化 大都市化 広域連携	農工バランス 都市と農村の融合 地域自立
価値観	経済効率	人々の豊かさ

1)環境

再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマス、コジェネレーションetc
リサイクル	資源ごみのリサイクル、雨水・排水の再利用、ごみのコンポスト化
エコハウス	省エネ設計(自然光·自然風の利用etc)、環境技術の導入(雨水の利用、排出物のバイ オマス化etc)、屋上緑化、自然建材(木·土·石·植物)・地元資源の活用、建材のリサイ クル、伝統的建築の維持・復活etc
パーマカルチャー	その土地の地形、気候に最も適し、生態系に負荷をかけない循環式無農薬 有機農業の 達成を目指しており、あらゆる自然のものを一石二鳥にも三鳥 にも有効活用するような 効率性の高いデザイン
地元有機農業 / 地産地消	地域内食料生産と消費。不耕起、無農薬有機農業。自給自足。ゼロエミッション
バイオリージォナリズム	国家を政治的な境界で見るよりも、生物学的に一つとみなされる生態的地域を領域とする。そのバイオリージョンの境界内で、その制約のなかで、持続可能な生活のあり方を編み出す取り組み
自然の修復/緑化	植林、生物多様性の維持、自然保全、ビオトープづくり、環境再生
自動車抑制	歩道・自転車道・公共交通の優先とその整備、都市施設の集積
環境汚染改善	環境基準の引き上げ、大気・水・土の浄化

2) 社会

コミュニティ/参加	住民参加、地域住民の交流(若者・高齢者・女性etc)、社会結束、共同居住宅、 地域イベント
教育/自己啓発	環境教育、環境ビジネス職業訓練、環境情報提供、エコビレッジの普及
精神性	自然とのふれあい、自然の畏敬、穏やかな生活、霊性、宗教性
健康	健全な生活習慣、健康保持、自然治癒力、自然医療(園芸療法)
文化	伝統文化、風土、芸術活動、アイデンティティー
福祉	高齢者・障害者の参加・共助

3) 経済

環境ビジネス	エコビレッジの経営・知識提供、エコハウス建設、環境教育、環境技術教育、リサイクル 施設、有機食物生産、健康管理施設、健康食品、エコツーリズム、エコビレッジツーリズム、関連研究
地域内経済	コミュニティビジネス、地域通貨、物々交換、インターネットビジネス、芸術、工芸、メディア、出版業、レストラン、自然食品、通信販売、マイクロクレジット

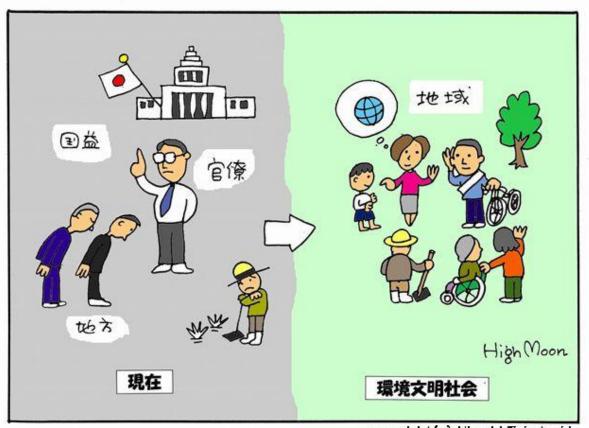
・国家とは、社会とは

- *戦前「富国強兵」・・国民は"皇軍 兵士"⇒軍事大国 ×
- *戦後「産業復興」・・国民は"企業戦士"⇒経済大国 ×
 - 一国家に目標があり、国民はそれに役立つパーツ/「機能体」
- *今後「市民社会」・・国民は "??"
 - 一国家自体には目標はなく、国民全体の幸せが目標/「共同体」

→ 「教育の方向」は、"戦士"の養成から、真の"市民"の養成

社会基盤

6. 政治



copyright(c) Hiroshi Takatsuki

これまでの政治は、中央集権の官僚主導の政治、経済重視の政治でした。

これからみんなで作る社会は、全ての市民の命の源である「環境」を大切にし、今生きる私たちだけでなく 将来世代の声も反映される、市民による市民の為の民主的な政治で、国と地方の役割が明確で、地域が主権を持つ政治です。

NPO法人環境文明21 NPOと企業・学識者の連携による「環境文明社会」 のロードマップ作りより

倫理観の転換

- *大震災は日本人の行動規範を世界に見せる機会となった。
 - → 「これほどの思い遣りを持ち、これほど社会秩序を保てるのか、 との世界中からの賞賛の声が」
- *大震災直前のアラブ系のドキュメンタリー番組で、イスラム教の聖職者は、
 - → 「日本人の行動規範こそイスラム教が教えてきたこと。 なぜそれが日本人に受け継がれているのか。」
- *関東大震災の後にも、フランスの駐日大使ポール・クローデルは、パリでのスピーチで、
 - → 「私がどうしても滅びてほしくないーつの民族がある。それは 日本人だ」、「古くから文明を積み上げてきた民族・・ 彼らは貧しい。しかし高貴だ。」